

## マネージメント情報

### ※ DC305 と Genomic について

まだまだ聞き慣れない Genomic(ゲノム評価)ですがアメリカではこのゲノム評価で種雄牛が生産されています。後代検定なしに種雄牛の遺伝子評価だけでその牛が評価され市場に出てきているわけです。現在のところその賛否があるようですが時代はそこまで進んでいるということは事実のようです。

例えばアメリカでコーンはこの遺伝子評価を使った改良で1965年から2002年の約40年間で30%生産量が伸び、さらに2010年には3.8%生産が伸びたそうです。

このような生産性のアップを乳牛にも応用すれば同様な結果が期待されるということです。

しかしながら、いまだに実際に後代検定しなければ正確な結果は期待できないということのようですが、両方の評価をすり合わせることによって改良のスピードが格段に上がることは間違いありません。

われわれが使っている DC305 もこの流れに対応すべくバージョンアップしました。種雄牛の評価だけではなく個々の雌牛もこのゲノム評価の情報を入れて種雄牛を選択させようという事のようにです。具体的にはまだ詳細は確認できていませんが雌牛の正確な情報が必要なことは間違いありません。

そのためお願いですが、繁殖検診を実施している農場の方は分娩報告で雌牛(♀)が産まれた時には、その子牛の個体識別番号を記入していただけないでしょうか。

あとで番号(ID)を連絡していただく事が多いのですが、分娩時に子牛の番号(ID)を入力できると母牛、種雄牛の情報が自動的に反映され親子の関連性が入力されます。

という事で雌側の改良で必要な情報が親→子へとつながってくる事になります。また、疾病の情報も関連してきますので、乳房炎・蹄病・周産期病(乳熱、ケトosis、第四胃変位)があればその情報も授精、分娩報告の時に合わせて記入していただくとありがたいです。

その結果がでてくるのは数年後かと思いますが、情報は多い方が良いですのでお願いします。

種雄牛の選択プログラムとDC305の情報がうまくリンクすれば改良のスピードと正確性が間違いなくアップすると思います。

### ※ 雌の四つ子誕生



昨年カリフォルニアで雌の四つ子が誕生したというニュースがありました。卵子が3つ排卵されて受精し、そのうちの一つの受精卵が2分割して四つ子になったと言われています。その確率は……

- ・ 牛の4つ子の確率は70万分の1
  - ・ 全てが生きて生まれる確率は1,120万分の1
  - ・ 全てが生きて生まれ、全て同じ性である確率は1億7,920万分の1
- とのことです。  
生命の神秘ですね。

DairyHerdNetwork より

.....  
・今年は本当に寒い冬ですね。その原因は遠く北極海のバレンツ海の海氷面積が少ない時に事に関連しているそうです。世界は広いですがこんな事もわれわれに影響を与えています。